

“Lean Action Program” 講義シラバス

分類	講義テーマ	学習内容と目的
起業家思考	パラダイム (常識の突破)	世の中で常識と呼ばれているものの多くは、時間の経過と共に覆ります。つまり常識が常識でなくなるのです。例えばビジネスの世界では長らくワープロでドキュメントを作成して情報交換する事が「常識」であった時代がありましたが、この常識はすでに風前の灯火です。こうした現象が起きるのは、実は常識とは「仮説」に過ぎないからです。そしてある仮説が「当たり前」と理解されている状態のことを「パラダイム」と呼びます。ある一定期間、ひとびとの考え方を支配する理論がパラダイムなのです。こうしたパラダイムが変化する事をパラダイムシフトと呼びますが、多くのパラダイムシフトは起業家の手によって実現されています。つまり起業家の本質とは「常識：パラダイム」を覆すことなのです。本講義ではパラダイムの歴史を紐解きながら、なぜひとはパラダイムに捕らわれるのかを理解し、パラダイムの覆し方を学びます。
	ストラテジー (戦略思考の醸成)	ストラテジー（戦略）とは何のために存在するのでしょうか？それは一言で言えば「弱者が強者に勝つため」や「圧倒的に不利な状況を覆すため」だと言えます。つまり、資源に乏しいベンチャーにとっては必須の思考だという事です。この講義では、戦略の必要性、意味を理解し、ベンチャーの戦いにどのように取り入れていくかを学び、資本的弱者としての基本的な経営方針を確立します。
	イシュー (本質を見抜く技術)	新規事業がマーケットに受け入れられない最も多いパターンは、事業提供者が理解している課題（イシュー）がマーケットの理解と乖離していることです。せっかく事業が取り組むテーマが良いものであっても、イシューの設定に失敗する事によって「ニーズ」を外してしまうのです。よくビジネスでは「顧客の課題を理解しろ」と言われますが、イシューという考え方は単にマーケットや顧客の課題や問題を明確にするだけではありません。事業を設計するにあたっての基本的な姿勢を定義する重要な思考なのです。本講義ではイシュー設定の基本的な考え方を通じ、事業を設計する際の「単なる課題仮説の設定」と「イシューの定義」がどのように異なり、どのように経営方針を決定していくかについて学びます。
	ジレンマ (板ばさみを乗り越える)	日本だけに限らず、社会には長い間解決しないまま放置されている課題が数多くあります。例えば週末の高速道路は常に渋滞状態にありますが、これは「全員が公共交通機関で移動すれば快適に移動できる」ことが分かっているながら「でもその状況でマイカーで移動した人も同様に快適に移動でき、自分だけ損をするのはイヤだ」という、いわば葛藤状態にあることが原因です。このような状況を「ジレンマ」と呼びますが、解決策の多くはこうしたジレンマ状態の正確な理解から始まります。葛藤状態にある相反する要求を、第三の手段を講じる事によって両者の利益を実現させるのです。この講義ではジレンマの発生メカニズムと、それをどのように乗り越えるかについて学びます。ジレンマのハンドリングは多くの起業家にとってアイデアの源泉になる思考です。
	ムーブメント (動かないものを動かす力とは)	中東の民主化や、LGBTなどの多様性を受け入れる社会作りなど、しばしば世界的なムーブメントが発生します。果たしてこうしたムーブメントは意図的に引き起こす事は可能なのでしょうか。一方で2014年に日本でも多くの人々が参加した「アイス・バケツ・チャレンジ」のようなムーブメントもありますが、こちらは「多様性の寛容」の社会的な浸透とは裏腹に、一夏で流行は過ぎ去ってしまいました。ベンチャーの仕事とは、ひとが動かせない常識を動かし始め、そして新たな常識を「定着」させる事です。まずは常識をどのように突き崩していくかを学び、動き出したムーブメントを一過性にせず新常識として定着させるためのメカニズムを学びます。
	アイディエイト (未来を観念化する)	創造性や斬新なアイデアはどこからやってくるのでしょうか。そして意図的にアイデアを生み出す事は可能なのでしょうか。本講義では、そもそもアイデアとは何か？を考え、そしてそれを生み出せる思考や環境についての基本的な考え方を学びます。起業家としての人生は常に新たな発想が要求されるため、まずはこの思考を徹底的に理解する事が、その後の起業家人生を左右すると言っても過言ではありません。

<p>プロセス (リーンの本質、ムダのない経営とは)</p>	<p>リーンスタートアップの基本は「プロセス思考」です。新規事業投資の成功を単なる事業設計だけではなく、新たな経営を生み出す事で実現しようというアプローチで、ある特定のカリスマに依存する事なく、組織として「マネジメント（経営）」こそがイノベーションを生み出す可能性を高めると説いています。「経営」とは幾重にも渡って設計されたプロセスの集合体であり、例えばリーンスタートアップの書籍に登場する「革新会計：イノベーション・アカウンティング」とは、プロセス思考の基本である「評価基準」を正しく設定する事の重要性を訴えているのです。プロセス思考の基本は実はとてもシンプルな考えです。この思考をマスターする事によって、最小限の資源で最大の成果を得られるようになります。</p>	
<p>イノベーション (変革の本質)</p>	<p>イノベーションという言葉は、今から約100年ほど前にオーストリアの経済学者であるヨーゼフ・シュンペーターによって定義されたと言われていています。今では多くの場面でその必要性が語られるイノベーションですが、多くの場面でその意味は「新規事業や新製品」と混同されています。この講義ではイノベーションの本質を正しく理解し、本来イノベーションに求められている「変革」について学びます。</p>	
<p>言語化 (解説ではなく、思いを伝える技術)</p>	<p>起業家にとって、ひとに思いを伝えるということは最も重要なスキルのひとつです。自分の思いを伝えて仲間を募る事から始まり、事業の魅力をマーケットに対して提示していく事まで、すべては「何を伝えるか」よりも「どう伝えるか」が常に問われ続けます。しかも、それぞれのシーンで与えられる時間はとても短いため、ここでつまづくケースが実に多いのです。「解説する」ではなく「伝える」を身につける事は、「分かってもらう」ではなく「関心を持ってもらう」ことへの転換なのです。</p>	
<p>仮説検証 (科学と実験)</p>	<p>すべての事業アイデアは仮説である。リーンスタートアップを理解しているひとであれば当然理解していることです。しかし実際に事業に関する仮説を導き出し、これを検証して立証しようとするとなると、途端にほとんどの人が正しく実行する事が出来なくなってしまうのです。頭では仮説検証の必要性を理解しながらも、実際にこれを行う事はとても困難なのです。本講義では仮説検証の基本を理解し、正しい仮説設定および検証方法について学びます。</p>	
<p>経営の基礎</p>	<p>法人の基礎</p>	<p>所有と経営、法人格、取締役、資本構成など、法人を開設する際に必要な最低限の知識を学びます。将来投資を考えている場合には必須の知識です。</p>
	<p>収益・資本の基礎</p>	<p>設立した法人や独立した個人が獲得を目指すのは、収益という、事業からの売上げだけに止まりません。企業が扱うお金の流れを財務諸表の基本と共に学習し、様々な種類の収入を、組織の活動内容との相性を考慮しながら学びます。</p>
	<p>事業投資の基礎</p>	<p>事業立ち上げから終了までのライフサイクルに関する基本的な知識を学びます。一般的に「導入期」「成長期」「成熟期」「衰退期」と言われる事業のライフサイクルにおける、基本的な経営判断基準を学びます。刻々と変化する内外環境において、適切な経営判断を下す指標を解説します。</p>
	<p>資本主義とは</p>	<p>日本を初めとする多くの諸外国で起業する場合、ほとんどの環境では「資本主義」のメカニズムに基づいて経営することになります。しかしこの資本主義、名前のなじみほどその実態を理解する人はほとんどいません。経営者が下す経営判断は資本主義のメカニズムによって形成されるため、この概念を正しく理解する事は経営者の必須の知識です。</p>
<p>起業準備</p>	<p>キャリアシフト</p>	<p>やりたいことが目の前に現れた時に、ためらいなく動き出せる人とそうでないひとに分かれます。プログラムに参加を決意したすべての受講者が無事に起業できるよう、時間管理、収入源、生活環境などを一緒に考えていきます。</p>
	<p>最初の一步の踏み出し方</p>	<p>最初の一步は「誰」と「どのような」形で歩み始めるか、とても様々な選択肢の中から受講者に適した手段と一緒に考えます。やりたい事、出来る事、必要とする人、をどの様に設計するのが良いか、実践を繰り返しながら見つけていきましょう。</p>